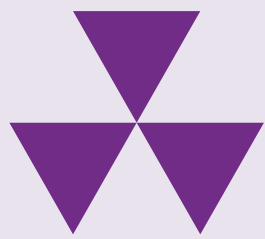


DOSHISHA TOKYO JOURNAL



同志社 東京ジャーナル

2018 Spring
No.111



同志社東京校友会

表紙写真 新島襄生誕の地碑前祭・初春縁日広場

INDEX

新島襄生誕の地碑前祭・初春縁日広場・午餐会

新島襄終焉の地碑前祭

大谷實前総長 特別講演会
「同志社のきのう、きょう、あした」(上)

同志社スポーツ

片桐家同志社五代記(二十四)・連載コラム 今出川四季

校友訪問/ロイヤルホールディングス 用松靖弘さん

善意通訳組織 同志社SGG・Joeの会設立へ

首都圏・校友の店/がんこフードサービス

東京校友会はじめて物語/春の集い

告知/第20回春の集い2018・春の集い20回の歩み

杉本八郎教授の認知症セミナー・すみれ亭句会

告知/定時総会・評議員会

ますます活性化する「新島襄生誕の地」碑前祭

神田地域の皆さんとともに楽しく親しく

今年も校祖新島襄を偲び、その生誕を祝う「生誕の地碑前祭」が神田錦町の学士会館南側の碑前行われ、200名以上の校友や地域の人達が集い、大盛会となりました。

第一部 生誕の地碑前祭

2月12日（振替休日）10時45分より、新島襄が安中藩江戸上屋敷で誕生して175回目の生誕を祝う碑前祭が学校法人同志

社の主催で行われました。

受付で芳名カードを記入した参加者には、その際に使用したDOSHISHAの名前入りボールペンと新島先生が大好きだった「ぜんざい」がプレゼント



児玉会長が碑前に献花

トされました。今年は例年にも増して寒さが厳しい中、式辞やご挨拶・献花される方々はコートを脱いで参加されたのでした。司会は学校法人同志社の吉田由紀雄法人事務部長で、参加者一同による讃美歌312番の斉唱から始まりました。「いつくしみ深き 友なるイエスは 罪とが憂いを とり去りたもう」の歌声が新島襄生誕の碑を包み込み、新島錦町に響き渡り、一瞬で厳かな気持ちになりました。はじめに加賀裕郎学校法人同志社常務理事・同志社女子大学学長の式辞。続いて卒業生を代表して東京校友会児玉正之会長、地域代表として神田錦町三丁目目田智彦町会長からご挨拶がありました。その後、参加者全員で同志社カレッジソングを歌い、挨拶をされた三名の方が碑前に献花をされました。

第二部 初春縁日広場

生誕碑前祭の後は場所を学士



大勢の参加者で賑わう初春縁日広場

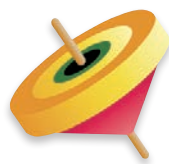
会館210号室に移して、11時20分より東京校友会主催の「初春縁日広場」を開催。オープニングは「新島七五三太（しめた）誕生」の寸劇からスタート。支倉清さん（73年・法）を中心にした有志により、4人の女兒誕生から5番目によくやく男児が誕生した時、祖父は「しめた！」と喜び叫び、「七五三太」と命名された場面が劇で再現されました。例年は江戸っ子新島襄に関する講演会などを行ってきましたが、振替休日当たる今年には地域の人々や子供達との交流をより一層図ろうということで、江戸時代の縁日を再現した「縁日

広場」を開催。けん玉、双六、こま回し、カルタ、川柳、玉入れ、江戸案内や江戸の火消しに関するクイズなど、大人も子供も童心にかえり楽しめる出店を用意しました。

地区の広報や小学校で宣伝をしていたこともあって、200名以上の参加者があり、過去最大規模となりました。さらに、大抽選会、全コーナー制覇者や川柳秀作者へ賞品のプレゼントで盛り上がり、前田町会長による「神田一本締め」にて縁日広場はお開きとなりました。

第三部 午餐会

新島襄の生誕を祝う午餐会



土会館精養軒渡
邊幸重代表取締役
社長からご祝
辞をいただきました。
市井人・斎藤月岑に学ぶ会」
の後藤慎久会長、錦三丁目第一
町会堀井市朗会長、株式会社学

は、会場を学生会館の202号
室に移して、13時より開催。今
年は事前申し込みも多く、また
ご夫婦での参加もあり、来賓も
合わせて100名以上の盛会と
なりました。会費の3500
円を支払ったあと、ナイフや
フォークが綺麗にセッティング
されたテーブルへ。東京校友会
横山徹代表幹事の司会でスー
トしました。
主催者挨拶は東京校友会見玉
会長と同窓会東京支部加藤聖子
支部長から。同志社大学から横
川隆一副学長、同志社女子大学
からは加賀副学長のご挨拶があ
りました。来賓ご挨拶は錦三丁
目前田町会長から、乾杯は同志
社校友会中村友一副会長から英
語でのご発声があり、賑やかに
昼食と懇談が始まりました。
精養軒の美味しい料理に舌鼓
を打ちながら、来賓の方々の紹
介があり、錦三丁目前田町会長、

また、こ
の碑前祭を
最初に始め
られた同志
社東京校友
会の西村四
郎名誉顧問
の紹介もあ
り、「昔は東京で同志社と言っ
てもあまり有名ではなく、ここ
の大学が誰も知らなかったが、
今日では同志社ですかと言っ
てもらえるようになって嬉しい限
りです。同志社の益々の発展を
願っております」とご挨拶され
ました。
さらに今年の大イベント「第
20回同志社東京・春の集い
2018」の若林英博実行委員
長から5月27日(日)にホテル
ニューオータニにて、同志社大
学卒業の大先輩、95歳の裏千家
前家元千玄室大宗匠と結成50周
年の男性コーラスグループ、タ
イムファイブを迎えて全員着席
にて行うことが発表されました。
閉会の挨拶は来場された方々
へのお礼を込めて東京校友会
金屋憲二郎副会長より「三連休
の最後の日にただけの人が来
られるのか大変心配していた
が、過去最高の参加人数でした。



有名な「上州カルタ」



午餐会には100名以上が参加

こんなに盛大になったのも、地
元、神田錦三丁目前田会長のお
力が大きい。三丁目町内会に加
入して、前田会長と知り合った
ご縁から、たくさんお知恵をい
ただき、千代田区や観光協会、
教育委員会などのつながりが
出来ました。また、学生会館の
精養軒、渡邊社長のご尽力で昨
年、碑の前に献花台を設けるこ
とができました。さらに、東京
校友会では、今年度より、関東・
甲信地域からの学生を応援する
ために給付型の奨学金を始めま
した」と挨拶があり、最後に同
志社チアードで締めとお開きとな
りました。
文責／作村満明(77年・法)
写真／新田博伸(77年・法)

1月23日(火)、大磯町で 「新島襄終焉の地」碑前祭

前日の大雪が嘘のように晴れ
渡り、快晴の大磯の地で今年も
「新島襄終焉の地」碑前祭が執
り行われた。黙祷、讃美歌斉唱
の後、八田英二総長・理事長か
ら次のような式辞が述べられた。

「新島襄先生は、1890年1
月23日46歳11ヶ月で大磯町の旅
館『百足屋』で永眠。22日の朝
学生達に想いを寄せ『天を恨ま
ず、人をとがめず』という言葉
をのこされた。臨終の日は八重
夫人、小崎弘道、徳富蘇峰を枕
元に呼んで立ち会いのもと遺言
を蘇峰に口述筆記させた」と最
期の状況を紹介。

「今日この場で先生のその想
いをはせると共に熱き志を思い、
200年の計を進めて行きたい。
2025年に創立150周年を
迎えようとしているが、今や14
学部を持つ大学であり、あらゆる
分野でフロントラインを進め
ていく所存である」と表明。

続いて中崎久雄町長が挨拶。
「町長として7年になるが、毎
年碑前祭に来て同志社のお話を



八田英二総長・理事長の式辞

聞かせていただくことを感謝し
ています。同志社の教育、知識、
また一國の良心としての人を育
てる、この考え方を基に、大磯
町でも新島襄先生の教えを実践
して行くよう教育長と話して子
供達を育成して行きたいと思っ
ています」

さらに竹村慶三校友会神奈川
県支部長が卒業生代表として挨
拶に立ち、1940年、新島襄
先生50回忌にこの地に建立、除
幕式が行われた碑の経緯を説明
された。

その後、恒例の詩吟・和歌朗
詠の後献花が行われ、最後にカ
レッジソングの斉唱で碑前祭は
終了した。

文責／片桐陽(67年・工)



大谷前総長を囲んで記念撮影(東京サテライト・キャンパス)

30歳で、同志社の専任講師として教職に入った私は、約40年前、41歳の時に法学部長にさせられてしまいました。その頃の学校は18歳人口の増加に対応して、入学生を増やしていましたから、キャンパスは満員の大変な過密状態でした。それを解消するために田辺町に移転しようとしても、学生も職員の一部も大反対、学内は大混乱しておりまして。そんな中、44歳の時に学長選挙があり、有志か

本日は思い出を交えて話したいと思います。20歳で、同志社の専任講師として教職に入った私は、約40年前、41歳の時に法学部長にさせられてしまいました。その頃の学校は18歳人口の増加に対応して、入学生を増やしていましたから、キャンパスは満員の大変な過密状態でした。それを解消するために田辺町に移転しようとしても、学生も職員の一部も大反対、学内は大混乱しておりまして。そんな中、44歳の時に学長選挙があり、有志か

2月22日(木) 18時半より、東京サテライト・キャンパスにて大谷實前総長の「特別講演会」があり、総長4期16年の思い出をお話いただきました。

田辺キャンパスへの移転

私は21世紀になって初めての総長でした。2001年から2017年まで、4期16年間総長を務めました。「同志社のきょう、きょう、あした」について

大谷 實前総長「特別講演会」4期16年を振り返って 同志社のきょう、きょう、あした(上)

ら推薦された私は8票差で学長になってしまいました。

そして、「開発に全力を傾けよう」と決意した矢先、心電図の検査で異常が認められたのです。

当時の上野総長にご相談すると「大谷君、学長を辞退されたらいかがですか」との回答。推薦していたいた有志にその話をすると、「折角、激しい選挙を勝ち抜き、ようやく学長になったのだから、辞退はよくない」との意見。それなら、開発許可をとるまでは頑張ろうと決意したのです。1980年のことでした。

心臓の不安を抱えながら、学生との団交、内部では反対派の教職員の突き上げに板挟みになりながら耐えに耐え、夏休みになり学生の少ない8月に、京都府へ開発申請を持参しました。京都府も実のところ待っていたように、すぐに許可が下り、9月から工事のブルドーザーを入れることができました。

それを見届けて、12月末を



大谷實前総長

もって学長を中途退任いたしました。4月からわずか9か月の学長在任に「大谷はへたばって逃げた」といった論調の新聞もありましたが、非常に不名誉なことでした。

これを機にもう学校行政には絶対に近寄らないと決意し、法学部のレベルアップに努力することにした。当時、司法試験合格者数でも、立命館、関西大学に負けていたからです。同志社には優秀な学生が来てくれるのに、これではいかんと思っておりました。

こうして、工学部と1回生・2回生の田辺町への移転により、今出川キャンパスの過密状態は、ようやく解消されたのでした。

(次号に続く)

文責／作村満明(77年・法)
写真／新田博伸(77年・法)

IC・電子部品の調達から技術まで一括サポート致します!

明光電子一社で全ての部品がそろい、技術サポート、製造、検査までのプロセスを「早く」「広く」「深く」をキーワードに実践できる、電子の統合サービスが明光電子の強みです。

早いレスポンス — 「情報」と「モノ」を素早く正確に提供
広いネットワーク — 業界に広く通じているから何でも揃う
深いサポート — 確かな信頼があるからこそできる協力体制



明光電子 株式会社

神奈川県横浜市港北区新横浜 3-18-9 新横浜IOビル
FAX: 045-471-2377
E-mail: info@meicodenshi.com

☎ 045-471-2223

明光電子 |

検索

代表取締役 十川 正明
(昭和48年 機械工学科卒業 合気道部)



全勝優勝で1部復帰を決めたサッカー部

同志社スポーツアトム編集部／発

同志社スポーツ

サッカー部 新たなスタートライン

サッカー部が復活の春を迎える。2部での戦いを強いられて1年。この舞台に戻るために戦ってきた。戦う準備はもうできている。

後期全勝での優勝、そして1部昇格を決めた昨季から約4ヶ月。ついに関西学生サッカーリーグ1部が幕を開ける。

舞台は、多くのプロを輩出する関学大や阪南大などの強豪校がひしめく関西1部。その中で同志社が目指すのはインカレ出場だ。同志社は2010年を最後にインカレの舞台から遠ざかっている。インカレ出場は同志社サッカー部にとって悲願ともいえる。

役者は揃った。3年連続でデンソーチャレンジカップ関西選抜に選ばれた新主将・吉村（スポ健4）を筆頭に、昨季優秀選手に選ばれた絶対的守護神の白岡（商2）、今季から10番を背負う竹田（商3）など戦力は十分揃っている。彼らはその経験と実力でチームを牽引する。

また新戦力も加わった。全国常連校の星稜高校で主将を務めた敷田や、元U-16日本代表候補の伊藤などは即戦力として期待できる存在だ。既存の戦力と新戦力がうまく融合できるかが、上位浮上の鍵となるだろう。1部での戦いは険しい道のりとなるだろう。しかし、それを乗り越えた先にインカレという

舞台が待っている。栄光の舞台へ、サッカー部の挑戦が始まる。

（藤田友樹・法学部3年）

平昌五輪と

同志社アスリート

進化を誓う

友野一希

スケーターたちにとって、今年には特別なシーズンだった。羽生結弦（ANA）と宇野昌磨（トヨタ自動車）が五輪代表に有力視される一方、3人目の予想は困難を極めた。3枠目は、誰がとるのか。夢の五輪への切符をかけ、トップスケーターたちが激しい争いを繰り広げた。その渦中に、友野一希（スポ健2）もいた。

11月に、自身初となるグランプリシリーズに出場した。代役として急ぎょ抜てきされる形だったが、大舞台に臨むことなく自己最高得点を更新して見せた。

代表候補として友野の名前が挙がることも増える中、最後の選考会を迎えた。結果は全日本4位入賞。目標であった五輪出場はかなわなかったが、第2補

欠に選ばれた。

全日本を終え、自分への期待の大きさを痛感した。1月のインカレでは、「今までの自分の実績を考えると負けられないという気持ちもあったし、プレッシャーもたくさんあった」

華々しい実績は時に重荷となり、友野の肩にのしかかる。それさえも跳ね返す強さを、この大会で証明した。得意のスピントとステップを武器に、3位で終えたショートプログラムから逆転し、見事インカレ優勝を成し遂げた。

今季は世界のトップクラスのスケーターたちと肩を並べ、期待を背負った大会でも結果を



フィギュアスケート部の友野一希選手

残した。日本を引っ張るスケーターになる素質は十分にある。「新しいものをやって、どんどん進化していきたい」勢いそのままに、世界へと羽ばたいていく。

（森戸尚毅・商学部3年）

【追記】世界選手権で5位！

3月19日（月）～25日（日）、イタリア・ミラノで行われたフィギュアスケート世界選手権に、ケガで欠場した羽生結弦選手に代わって出場した友野一希選手は、SP、フリー、合計ともに自己ベストを更新し、5位に入りました。

文責／新田博伸（77年・法）

連載
企画

片桐家同志社五代記

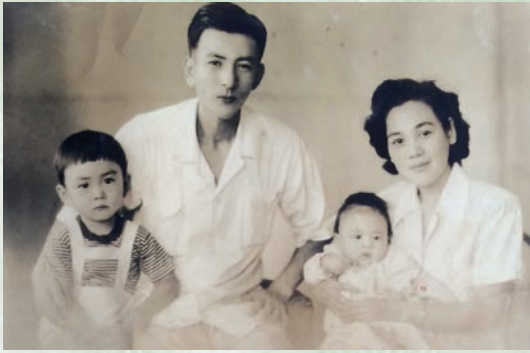
その二十四

文／片桐 陽(67年・工)

前回で曾祖父清治から始まる我が家の同志社人三代目が終わり、いよいよ四代目の話になる。今までは親族と言え他人の話だったので、客観的に書くことが出来たが、今回からは自分自身の話なので、そうはいかない。そう言うことで、なるべく客観的に書くようにしたい。

それと、私の出生から幼年時代までは何回か書いて来ているのでここでは省略する。

さて、私が最初に同志社と関わったのが同志社幼稚園だった。当時の園長は、同窓会会長も務められた武間富貴氏だった。



片桐昌家族(左が筆者、同志社幼稚園の頃)

1950年(昭和25年)私は同志社幼稚園に入園する。幼稚園は、当時住んでいた相国寺の自宅から本当に直ぐで、一年間通ったのに通園の記憶がない。それどころか幼稚園で何をしたのかも全く覚えていないが、父親から聞いた話では、卒園式に何と私が英語でお別れのメッセージをしたとのことだ。

子供の頃のアルバムにはその卒園式の写真もあるが、よく見るとその後同志社中学に入学した同級生も一緒に写っている。

1951年(昭和26年)京極小学校に入学する。当時同志社には付属の小学校はなかったの

で、卒園後は公立の小学校に行かなければならなかった。ところが入学後に下鴨前萩町に転居することになり、僅か一ヶ月で下鴨の葵小学校に転校になる。

北山通に面した前萩町に転居したが、当時北山通も我が家の前までは広がったが植物園の北側からはあぜ道が加茂川まで続き、その北側はずっと田んぼが広がっていた。子供の頃は、近くにヤギを飼っているお家があり、そこからヤギの乳を分けてもらっていたこともあり、そのヤギを散歩がてら加茂川までよく連れていったものである。

小学校時代は、母親の勧めで毎週日曜日に近くの日本キリスト教団京北教会の教会学校に通った。礼拝では賛美歌を歌い聖書を朗読する。クリスマスやイースター、バザーなど色々なイベントがあり、楽しい日々を送る事が出来たことと、幼くしてこのような環境に導いてくれた母親には感謝の気持ちでいっぱいである。

母親は、料理、手芸、木彫り、合唱などが大好きで、私にも小学校一年生からヴァイオリンを習わせてくれた。ただ、ヴァイオリンは自分で音を作らなければならぬので、習い始めた頃はギコギコと変な音しか出ず、全く楽しくなかった。また子供には大人のフルサイズの楽器は大きすぎるので、八分の一とか四分の一とかのサイズのヴァイオリンを弾かねばならず音も悪く、いやいやながらの練習だった。ただ、子供の頃からヴァイオリンを始めたことで、絶対音感とは言えないが音感が発達したと思っている。

連載
コラム

今出川四季



株式会社スタッフアイ
代表取締役社長
古田良三(1967年・文)

赤レンガの母校と御所

私の同志社の生活は「青春時代」の歌の通りで、沢山の苦さが重なり合った4年間でした。14番バスの終点松ヶ崎駅にある石川玄琢さんの下宿での4年間、裏山を越えた宝ヶ池で泳いだ思い出、授業の合間に百万遍にある「学生アルバイト紹介所」に通い、高額で短時間のバイトをさがした。家庭教師を2件、自宅の大掃除バイト7軒は固定客として確保、1日5時間ぐらい畳を上げ下げで千円から千二百円は最高のアルバイト。3年生から卒業までの2年間は大阪梅田の扇町にある「国際留学生会館」にて夜間、早朝の留学生(約20カ国、30人位)のフロントでの部屋の鍵、郵便物、メモの受け渡しを週2回続けた。バイトが終わる時にパキスタンから来ていたワレス・アリ君が送別パーティをしてくれた時は泣いた。

同志社大学と御所はいつも一緒にある。河原町今出川でバスを降り同志社女子大を右に見て、左に御所の今出川口、桂宮邸跡、そして今出川御門を見ながら正門から母校に入る。4年間いつも同じ、良心碑をチラ見して母

校に通ったが、御所がいつも優しく迎えてくれたから大学に行こう!と思うぐらい私には優しかった。大学に行く時は必ず御所に行った。四季折々の堂々とした樹木、足を取られる砂利道、京都御所を覆う壁、いつまでもいいよ!と包み込んでくれた。

北海道余市町で生まれ、札幌で育った私に古都の歴史を感じさせ、良心教育を教えてくれた4年間の京都生活である。今でも京都に行く時は、今出川河原町バス停から同じ様に歩きながら青春時代を楽しんでいる。



学生時代よく泳いだ宝ヶ池をバックに



「外食業は人間業」を基本理念に

前テンコーポレーション代表取締役社長
用松靖弘さん 1977年(昭和52年)経済学部卒

もちまつ・やすひろ 1955年生まれ 福岡に本社を置くロイヤル(現ロイヤルホールディングス)に入社。2012年に『天井 てんや』を展開するテンコーポレーション(ロイヤルホールディングス傘下)の代表取締役社長 尚、本年4月よりロイヤルホールディングス常務執行役員海外事業担当(執行役員外食事業担当)



座右の銘は「一隅を照らす者になれ」

校友 訪問

『食べ物好き』で『人好き』だった学生が、高級な洋食をリーズナブルな価格で多くの人に、という夢を実現した会社で鍛えられ、今、高級和食のイメージの強い天ぷらを質はそのままに大衆化し、世界に広めようと旗を振る。

「食べ物」が判断のきっかけに

用松は、まあ、相当珍しい姓だと思えますが、出身は「九州の小京都」といわれる大分県の日田です。江戸時代の天領、杉の美林で有名な盆地で、祇園祭もありますし、寒暑の厳しさなど、京都によく似ていますね。大分県とはいえ福岡県に近く、経済的にも文化的にも博多・久留米圏で、もともとそちらにシンパシーがある地域。実はこのこと

が現在の仕事にも繋がっているなあ、と思っています。

進学先は、多くが東京の大学を言う中、アンチ「巨人大鵬卵焼き」タイプですので、俺は関西、と決めて、同じキリスト教系で、西宮にある大学(笑)にも合格したんですが、やっぱり同志社の経済学部へ。京都の魅力は大きいですよ。4年間ここで暮らすと思うとワクワクしました。

というわけで、選んだ下宿も中京のど真ん中の、憧れの京町屋で、^{まかな}賄い付き。ただ、その家の賄いは、質量共に18歳の男子のお腹を満足させるものではなかった(笑)。そこで探したアルバイトが賄い付きの祇園の料理旅館(笑)。思えば、「食べ物」が判断のきっかけになっている人生かもしれないね。

二回生までに単位を多くとって、三、四回生の間は自由な時間を楽しもうというもくろみで、まずはジャズに没頭。聞くだけでなく、専門学校でベース演奏を勉強して、「用松靖弘カルテット」で日野元彦氏のコンサートの前座もやりました。他にも車の免許を取ってちり紙交換を

やったり、合コン合ハイで妻と知り合ったのでもいい思い出です。

「外食アワード2017」を受賞

就職は、オイルショック後の厳しい状況の中、「外食産業」という新しい分野の「ロイヤルホスト」を運営している会社を選択。同志社の経済学部の学生は大手の銀行など、名だたる企業へというのが半ば常識だったのか、就職課では、私の選択に「？」が付けられました。でも、自分では「外食産業」は大きく伸びる分野だと確信し、ロイヤルも可能性に満ちた企業だと思いましたから、迷いはなし。基本的には「食べ物好き」「人好き」ですし、いわゆる「鶏口となるも牛後となるなかれ」の気持ちに加え、九州・福岡の会社だというのも、自分にとっては響くものがあつたんですね。

ロイヤルの創業者・江頭匡一の「外食の産業化が国民の生活を豊かにする」という夢も胸に突き刺さりましたし、「高級洋食の大衆化」という旗印のもと、全国展開の最前線で頑張りました。ただ、関東での「ロイホ」

という略称での認識にはちょっと戸惑いましたが(笑)。

2011年にロイヤルホストの常務取締役になり、12年から「天井 てんや」をチェーン展開するロイヤルグループのテンコーポレーションの社長として、今度は「高級和食の代表格 天ぷらの大衆化」に邁進。「名店のクオリティをリーズナブルに」「天ぷらに新メニューを」ということで関東以外にも店舗が増えました。もちろん、関西対応の味の工夫などもしています。また、「天ぷらは必ず世界の食べものになる」というコンセプトのもと、タイ(仏教圏)、インドネシア(イスラム教圏)、フィリピン(キリスト教圏)にも出店し、研究を重ねています。

おかげさまで『外食アワード2017』を受賞いたしました。同志社経済学部の先輩である『がんこフードサービス』の小嶋淳司会長と同時に受賞というのもうれしいことで、これからも外食産業の新しい世界を追求して行きたいと思っています。

*

文責・谷村和典(72年・文)

Systematized Goodwill Guide



【お問合せ&入会申し込み先】「善意通訳 同志社SGG・Joeの会」
＜事務局メール＞ akeyozgo@ybb.ne.jp ＜代表者携帯電話＞ 080-1084-9168

会の名誉顧問には、八田英二総長・理事長（後列中央）が就任の予定

2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会を契機に、インバウンド4000万人時代が到来。観光客に便利な広域型SGGとして、また国際派同志社らしい組織で、他団体とは一味違った国際交流・親善に寄与していきます。

同志社OB・OG、教職員による善意通訳組織 同志社SGG・Joeの会設立へ

SGGとは、日本政府観光局登録の善意通訳組織のこと。

現在、観光客に対して通訳や観光案内をする「通訳案内士」は全国2万2千人で、インバウンド需要には圧倒的に不足すると予測されています。

そこで日本政府観光局（JNTO）では、ボランティアによる善意通訳の活動を拡充するべく20名以上の組織化された団体SGGの設立を後押し。

現在全国約90のSGGが各地域別に設立・活動しています。

この活動に同志社卒業生として貢献できないかと考えた首都圏在住の5名のESSOBがコアメンバーとなって、2016年9月、「善意通訳同志社SGG・Joeの会（以下「Joeの会」）設立準備会をスタート。

「Joeの会」は、既存のSGGと異なり、単一の大学卒業生と教職員により構成された、日本の中心的観光地である関西と関西をネットワークで結ぶ広域SGGとして、観光客に利便

性を提供できる、かつてない独自性を持った組織を目指しています。

現代の佐上勝彦さん（65年（S40年）・文）からは、「同志社創立者新島襄が、日本の発展の為に欧米の進んだ文化を取り入れることが重要と考え、国禁を破って渡米し勉学に励み、帰国後は同志社英学校を設立し、人材の育成に尽力されたが、今や同志社に学んだ卒業生達が日本の文化や現状を海外の方々に紹介・発信することが新島先生のご遺志を継承することに通じる」とのお話がありました。

「Joeの会」の目標は、①ボランティア活動により国際親善に貢献する ②誠実な奉仕の精神を持ってゲストの要望に対応する ③喜びと楽しさの中で共に助け合う仲間集団とする、に要約されます。

現在の会員は、関東49名・関西25名で未だ登録申請を行っていませんが、本年夏には東西各50名に拡充して、会の発足・正式登録を行う予定です。

活動拠点は、現在は東京のみですが、関西にも作り、2拠点体制としたいと考えています。会の名誉顧問には、学校法人同

志社八田英二総長・理事長のご就任も決まっています。

一方、すでに、非公式活動として、千葉での国際ガス展や浅草商店街の振興イベントの応援などに参加しています。

また、2020年のオリンピック・パラリンピック大会では、OB・OG・教職員のみならず現役を含めたオール同志社での「One Purpose」な組織を作りたいと考えています。

将来的には、3000〜4000名の組織にしたいと思っていますが、そうなれば、マスコミにも取り上げられる機会も増え、同志社のPR活動にも大きく貢献できるとの夢を持って活動していきます。

ぜひ多くの皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

文責／青木重之（78年・経）



SGG・Joeの会のコアメンバー
右から2人目が佐上代表



京都二条苑銀座八丁目店

【関東地区店舗のご紹介】

- 寿司・和食 上野本店・銀座一丁目店・新宿西口店・蒲田店・川崎店・立川店
- お屋敷 新宿山野愛子邸・武蔵野立川屋敷 ●京都二条苑 京都二条苑銀座八丁目店
- リトル沖縄 リトル沖縄（新橋）・あちこーこー（有楽町）・ちゃんがるう家（銀座）
竹富島（銀座）・沖縄時間（横浜）（詳細はHPでご確認ください）

がんこフードサービス(株)

【好評連載】

首都圏・校友の店

3

100年企業を目指して、お客様満足に徹した、新しい「がんこ」次々に登場

寿司を基本にした和食・居酒屋だけでなく、こだわりの食材をメインにした新たなダイニング・シーンを提案し続ける「がんこ」グループ。首都圏でも14店（リトル沖縄含む）を展開し、3月には、京都二条苑銀座八丁目店をオープン。



会員の皆様も良くご存じの「がんこ」の登場です。

1963年（昭和38年）東京オリンピックの前年に大阪十三の地でわずか4坪半の「がんこ寿司」を創業して以来55年、現在では95店を展開する外食産業の雄に成長。創業者である小嶋淳司会長（62年・経）にお話しをお伺いしました。

*

今も変わらぬ「がんこ」グループの基本は、品質の良い素材を確かな技術と大衆的な価格で提供すること。

そして、幅広い層のお客様に気軽に楽しんでもいただける店づくりに尽きると思ってます。

これは、寿司店では時価が当たり前だった頃に、あえて価格を提示して創業した時から、一貫した「がんこ」の精神です。

また、幅広いお客様に対応するため、難波に地上4階地下1階500席の和食大型店をつくり、寿司を基本に、和食・居酒屋・炉端焼きなどが楽しめる複合業態を開発しました。

これは、現在の飲食店のチェーン化・産業化に繋がる契機になったものと思われまふ。現在もエリアを絞った展開

（関西・関東）を進め、関東で30店を超えたら、レベルの高いセントラルキッチンをつくり、配送を2時間以内にすることを目指しています。

関東へは、1992年上野に1号店を開店。

現在は、沖縄料理のリトル沖縄グループを含めて14店を展開しています。

特に本年3月には、新店が一気に4店オープンし、東京にも、「京都二条苑」銀座八丁目店が開店、関東圏では初めての業態で楽しみが増えましたね。

さらに、持ち帰り惣菜の店も出店予定（京都）で、時代の変化を捉えた事業展開も進めています。

一方、和食の素晴らしさを守り伝えるべく調理技術・接客といたった人材教育を充実させることは、事業の基本であり、それが業績向上にも繋がる良いサイクルを生み出すものと信じて、力を入れていきます。

これから高齢化が益々進展する中で、「健康」をテーマにしたメニュー開発も行っていくと考えています。



「売り手が『少し安すぎたかな?』と思うぐらいの値段がちょうどいい。お客さんが喜んでくれる」と語る小嶋会長

減塩に効果的な出汁文化や発酵食品の活用、特にこれからは「味噌」が大きなブームになると思っています。

*

小嶋会長は80歳を越えてなお意気盛ん、4年前に脳梗塞を患われたとはとても思えないほど洗刺とされていましたが、若い頃からスキーに勤しまれ、63歳からゴルフを始められたとのこと。

今年はスキーを復活させようか悩んでいるとお話を聞くに至っては、「がんこ」社の関連企業風土を象徴しているように感じられました。

年次会等の会合やご家族での会食など、多様な業態の各店舗を気軽に活用ください。

文責／青木重之（78年・経）
写真／仁藤正平（78年・経）



第1回春の集いは、1998年3月29日(日)に開催された

連載 東京校友会はじめて物語(7)

はじめての「春の集い」

今年も「春の集い」が盛大に行われます。21年前にこの集いを企画・運営スタートさせた代表として3名の方、結城哲彦元代表幹事、大和忠元実行委員長、渡邊浩志元広報担当理事に当時の話をお聞きしました。

1998年(平成10年)3月29日(日)午前11時半よりホテルインターコンチネンタル東京ベイで第一回「同志社東京・春の集い」が開催された。同志社人なら誰でも気軽に集える懇親の場として、かた苦しくないように「春の集い」と名付けた催しとした。会費は一万円、約300名が集まった。

これを実現するには当時の方々の母校を思う情熱と行動力そして知恵をだしあつての努力があつた。その情熱に火を付けたのは立命館で、東京ドームを借り切って、人気歌手、倉木麻衣とヤクルトの古田敦也をゲストに2万人を集めたイベントをやつたと聞いて負けてはおられないと立ち上がった負けず嫌いの有志達であつた。

しかし、有り余る情熱はあれど、金がない、人がいない、場所がないのナイナイ尽くし。校友会もまだ、銀座の聖書館ビルで同志社東京分室での間借り状態で、会員数も約600名しかない状況。そこで、同志社と聞けば燃える大和さんが、「実行委員をやってくれ」と一人一人を説得することから始まつた。幸い元気のいい行動力ある現役

世代の若い人達が集まつて実行委員会を立ち上げ、広告と献品依頼に同志社に関係する企業を次々に回つた。本当によく頑張つたが、仕事が終わつても夜に集まる場所がない。そこで、結城さんが代表取締役専務をされていたホテルインターコンチネンタル東京ベイで報告会を開くようになった。毎晩の打ち合わせの後、カレーライスやビールまで御馳走になった。お陰で広告も献品もよく集まり、前日、実行委員はホテルに泊まりこんでお土産の袋詰め準備や資金作りのために販売もしていた献品の値札付け作業を皆で楽しく行つたほどだつた。

当日は、様々な企画でおもてなし。オークションがあり自動車や絵画を落札した人もいた。さらにゲームやくじ引き、ブリクラ3台のコーナーもあり、校友が子供を連れて時間に縛られず三々五々来ても家族で楽しめるように工夫した。

別室では自主講座と題し、講師3名による立ち見が出るほどの講演を実施。さらに千葉支部の発足会や政法会東京支部の説立準備会もここに合わせて行い、ホテルのふたつのフロアを借

り切つて、午後3時の終了まで大盛況の会となつたのだつた。

2011年(平成23年)には東日本大震災による中止があり、今年が20回目の「春の集い」。記念の会にかける思いを三人にうかがつた。

5年間実行委員長、その後5年実行委員をした大和さんは「凄いなあ、成長したなあ。20回をバネに更に飛躍して欲しい」

渡邊さんからは「10年連続で実行委員を務め、感謝状を授与された時にも壇上から叫んだが『同志社東京校友会は永遠です』」

結城さんからは「あの時蒔いた一粒の麦が大きくなった。まさに同志社精神そのものです」

文責/作村満明(77年・法)



左から結城哲彦さん、大和忠さん、渡邊浩志さん

家族葬から社葬・お別れの会まで、
信頼の葬祭ブランド「公益社」におまかせください。



KOEKISHA

株式会社公益社 ネットワーク東京・横浜・大阪・兵庫・奈良
東証一部上場 燦ホールディングスグループ
東京・神奈川に11会館 大阪・兵庫・奈良に31会館

まずはお電話を。公益社 ご葬儀相談センター(24時間・365日受付)

さよならのこころ
0120-347-556

https://www.koekisha.co.jp 通話料無料・携帯電話可

首都圏ネットワーク(自社会館・営業所)

- ◆ 東京本社 (港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 14F)
- 公益社 用賀会館 ● 公益社 雪谷会館
- 公益社 高円寺会館 ● 公益社 高輪会館
- 公益社 明大前会館 ● 公益社 東久留米会館 (2017年8月オープン)
- 公益社 仙川会館 ● 公益社 喜多見会館 ● 公益社 田園調布会館 ● 公益社 日吉会館
- 青山ご葬儀相談室 ■ 鶴見営業所

※上記を中心に300ヶ所以上の葬儀場がご利用になれます。

対応地域 首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)
近畿圏(大阪・兵庫・奈良)

燦ホールディングス(株)
燦公益社

社友

はりしまさのぶ
播島 幹長 (昭和33年 経済学部卒業)

燦ホールディングス(株)
燦公益社

顧問

おがわよしひで
小川 佳秀 (昭和50年 経済学部卒業)



て活動されています。私たち後輩に向けて貴重な教示を賜れることと存じます。

引き続き同志社軽音学部出身のタイムファイブによるスペシャルライブ、懐かしい歌やジャズでお楽しみ下さい。

恒例の大名刺交換会も会場を広く取り開催致します。同志社

十五代前家元鵬雲斎千玄室大宗匠をお招きしてご講演を賜ります。大宗匠は我々の大先輩で、大変な戦争体験から「一盃からピースフルネスを」の理念を提唱され、世界平和の実現に向けて

若林実行委員長より熱いメッセージ

本年は春の集い第20回の記念大会になります。二十年間の思い出をパネルにして展示致します。応援団はその日が大学野球同立戦と重なりましたので、O Bの皆さんが現役に代わって演舞を披露して頂きます。

皆さん、もう申し込みはお済みでしょうか？ ホームページからでも申し込みが出来ます。皆さんのご来場をスタッフ一同心よりお待ちしております。

「第20回同志社東京・春の集い2018」実行委員長

若林英博(74年・工)



【作成】新田博伸

●東京サテライト・キャンパスで話題を集める

世界初の「認知症治療薬」を目指す杉本教授の「無料セミナー」

◆薬学会のノーベル賞受賞

「名前の八郎は八番目の子供
ということ（笑）。僕らの頃は、
貧乏で子だくさんは当り前でした
たけどね」と語る同志社大学生
命医科学部客員教授の杉本八郎
先生。様々な困難を乗り越え、製
薬会社エーザイの研究員になり、
『新薬開発』人生が始まります。

成功は千分の二の確率といわ
れる新薬開発ですが、杉本先生
は2つの新薬を創出。その一つ
が1990年代の認知症進行抑制
剤「アリセプト」で、アメリ
カでの発表は世界の注目を集め、
薬学会のノーベル賞と言われる



笑顔も魅力の杉本教授

すみれ亭 昭和38年会俳句会

鎮魂のチエロの響きや花吹雪

池田 和代

約二万もの犠牲者を出したさきの3・11震災。鎮魂の
暗鬱なチエロの響きの中に魂がつつぎと蘇る。

加えて花吹雪（春）なる季語の豪華さと儚さは、それに
替る日本語を知らない。
（選評・あかぎ倭鳥）

英国「ガリアン賞」の受賞に繋
がりました。多くの創業研究に
関わる中、最愛のお母さんが認
知症になったことから、その対
応に研究心が向かったのです。

「あんたは、どちらさん？ こ
う母に言われたときはショック
でしたし、悲しかったですね」

◆認知症根治薬へ、夢の途中

現在、最もなりたくない病気
の一つに挙げられる「認知症」で
すが、大きく三つの「型」に分け
られています。このうち約五割
が「アルツハイマー型」で、杉本先
生の創業の目標も、この「アルツ
ハイマー型」対応。先に世界初と
評価された「アリセプト」は抑制
の薬ですが、現在取り組んでいる
のは根治を目指すもの。しか
し、薬の開発には研究の時間と
努力だけでなく、莫大なお金が

かかります。現在、杉本先生の研
究に上海の企業が注目し、壮大
な夢が実現へ進み始めようとし
ているとのこと。「創業できれば、
本場にノーベル賞ですね」と笑
う先生ですが、現在同志社東京
サテライトキャンパスで行われ
ている「認知症セミナー（無料）」
は、先生のサポーターを一人でも
多く、というプロジェクト。「一
緒に夢の実現へ一歩踏み出しま
しょう」と呼びかけています。剣
道教士七段、俳句は「風土」同人
会会長という先生の人間力の
大きさも魅力です。＊原則毎月
一回開催 申し込みはFAX: 03-6265-1932 メール: tsuginoto@congnition.or.jp

文責／谷村和典（72年・文）

編集後記

今年の「春の集い」は第20回
の記念大会になります。今号で
は第1回春の集いを企画・運営
された結城さん、大和さん、渡
邊さんにインタビューをさせて
いただきましたが、誌面の都合
により、その一部しか収録する
ことができませんでした。

文責／新田博伸（77年・法）

定時総会・評議員会案内

東京校友会の2018年度
（平成30年度）定時総会・評議員
会の日程が決まりました。

日時：6月28日（木）18時～

場所：東京サテライト・キャン
パス セミナールーム

議題（報告事項）

- ① 2017年度活動報告
- ② 会計報告 ③ その他
（審議事項）

- ① 2018年度活動計画案
- ② 活動収支計画案 ③ その他
出席者される方は準備の都合上
6月11日（月）までに事務局まで
ご連絡をお願い致します。

電話：03-5579-9728

FAX: 03-5579-9729

DOSHISHA TOKYO JOURNAL

2018.April. NO.111 同志社東京校友会

〒101-0047 東京都千代田区神田3-22-7 大平ビル6階

電話：03-5579-9728

FAX: 03-5579-9729

発行人／児玉正之

編集人／新田博伸

印刷／株式会社スバルグラフィック

http://www.doshisha-tokyo-alumni.jp

mail:office@doshisha-tokyo-alumni.jp

HP 会員ページ
ログイン情報

ID=doshisha
PASS=1875

DAIKIN

世界中でつくります。なかった空気。できなかった空気。

国が違えば、暮らしが違えば、欲しい空気も違えば。
ダイキンは最新の空調技術で、その全てに応えたい。



ダイキン工業株式会社